

## 茨城県土浦市宍塚の里山管理

### 1. 地域の概況

宍塚（ししつか）は茨城県土浦市にあり、霞ヶ浦の西に位置する都市近郊型里山である。宍塚大池を中心に、谷津田、畑、茅場、雑木林などの二次的自然が約 100ha の広さで残る。近くに宍塚古墳群や国指定の上高津貝塚に代表される遺跡群があり、歴史的にも貴重な地域である。一時開発の危機にさらされていたが、各大学や公的研究機関による研究、NPO 法人宍塚の自然と歴史の会による保全活動などにより、その価値が見直されつつある。



図 1 茨城県土浦市宍塚

### 2. 宍塚の里山の変化

昔ながらの宍塚の里山利用形態に大きな変化が現れ始めたのは昭和 30 年代であった。農業の機械化が始まり、トラクターや耕運機が普及して耕作にかかる時間と労力が軽減されていった。この流れの中で、農業機械が入りにくい谷津田は徐々に放棄されていった。またその頃から、生活燃料であった炭や薪が LP ガスや灯油に置き換わっていき、昭和 50 年頃にはもはや炭や薪を集める必要がなくなった。さらに外材の輸入が自由化された時期にも重なり、人々が生活に利用してきた山は、薪、炭、構造材の採取場としての経済的価値を失った。下の写真は昭和 22 年の宍塚（左）と平成 13 年の宍塚の様子（右）を写した空中写真である。一見、平成 13 年の方が豊かな林に見えるが、それは谷津田も林も手入れされなくなったため、谷津田脇の林が繁茂してきたことによる。

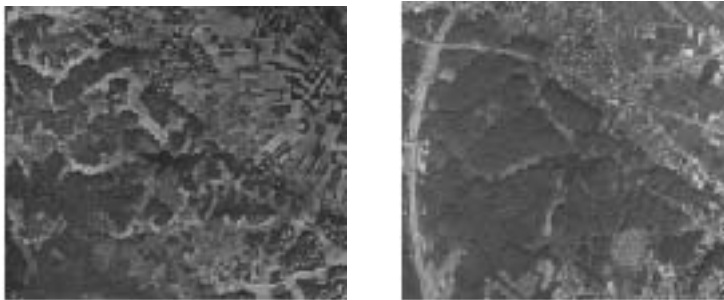


図 2 宍塚の空中写真

左：昭和 22 年(1947 年)

右：平成 13 年(2001 年)

「続聞き書き 里山の暮らし—土浦市宍塚—」より引用

### 3. 宍塚の自然

村に長く住む人から集めた昔話には 226 種類の動植物の名前があげられた。キツネなどの哺乳類、ヤマドリ、モズなどの鳥類、ゲンノショウコ、シロダモ、ヌルデ、エビネなどの植物があり、薬や食事、祭事に利用されたり、害虫や雑草として駆除の対象にしたり、また観賞の対象として認識されていたことがわかった。

これからの自然と人間の関わり方を考えるために、NPO 法人宍塚の自然と歴史の会などが中心となって里山の文化を保全する活動が行われている。

出典：NPO 法人宍塚の自然と歴史の会、2005 年、続聞き書き 里山の暮らし—土浦市宍塚。